

***東京大学天文学教室から古い天文学関係器具などの譲渡**

東京大学大学院理学系研究科天文学専攻の岡村定矩教授が2012年3月末で定年退職するに当たって、研究室に保管してあった古い器具類を国立天文台天文情報センター・アーカイブ室に託された。今回譲渡された器具類は下記の17点である。

- 1) セオドライト
- 2) 上皿竿秤
- 3) タイガー計算機
- 4) 自在曲線定規
- 5) 高級図画伸縮器
- 6) $2.5\log x$ つまり mag (星の等級) 目盛スケール (北村正利教授製作?)
- 7) 半円分度器 17.2.20 と日付が入っている
- 8) プラニメーター 14.9.4 と日付が入っている
- 9) コンパスの先端4セット
- 10) 日本光学製ガラススケール
- 11) プラニメーター 松崎精機製作所製
- 12) キヤノンカメラ 31.3.29 という日付が入っている
- 13) DRBIT Microscope
- 14) 玉屋製製図器セット
- 15) HENMI 製計算尺
- 16) 磁石 (コンパス)
- 17) ロットリングセット

このうち、非常に珍しいものは、6) $2.5\log x$ つまり mag (星の等級) 目盛スケール (北村正利教授製作?) である (写真1)。北村正利元東京大学東京天文台教授が製作したも



写真1 星の等級が log スケールで読める物差し

のと伝えられている。筆者も他の天文学者が使っているのを見た記憶がある。光電3色測光の観測チャートを等級で直接測れる優れものであった。残念ながら譲渡されたものはガラススケールが中ほどで折れていてセロハンテープで繋いでいる。

次は、なかなか立派なセオドライトである（写真2）。これはさっそく天文機器資料館に展示させていただいた。



写真2



写真3



写真4

他に珍しいものとしてはプランニメーターが2個あった（写真3、4）。2）上皿棹秤も筆者のような年配のものには懐かしいものであり、まだ何の問題もなく使えるものである（写真5）。



写真5 上皿棹秤

3) のタイガー計算機はおなじみのものである。4) の自在曲線定規も珍しいものだが、今では使う人もいないだろう (写真 6)。



写真 6 自在定規

5) の高級図画伸縮器、これもなかなか面白い (写真 7)。



写真 7 図画伸縮器

6) 半円分度器は TAMAYA 製の立派な真鍮製である (写真 8)。



写真 8 TAMAYA 製の半円分度器

その他の、9) コンパスの先端 4 セット (写真 9)、10) 日本光学製ガラススケール (写真 10)、12) キヤノンカメラ (写真 11)、13) DRBIT Microscope (写真 12)、14) 玉屋製製図器セット (写真 13)、15) HENMI 製計算尺 (写真 14)、16) 磁石 (コンパス) (写真 15)、17) ロットリングセット (写真 16)、3) タイガー計算機 (写真 17) の写真を

載せておく。



写真 9



写真 10



写真 11



写真 12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17

写真 17 の手回し計算機は、よく見るとタイガーとは書いていない。Toshiba という刻印がある。この手の計算機はすべてタイガー計算機と思っていたが、Toshiba 製品があったようだ。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp